令和８年度病害虫発生予報第７号（１１月予報）概要表

令和８年１０月２７日
埼玉県病害虫防除所

作物名・病害虫名	予報内容	
	発生時期	発生量
１　麦類の播種前防除対策		
（１）コムギなまぐさ黒穂病		
（２）黒節病（オオムギ黒節病、コムギ黒節病）		
（３）縞萎縮病		
（４）オオムギ斑葉病		
（５）シロトビムシ類		
２　きゅうり（夏秋栽培）		
（１）べと病		多
（２）うどんこ病		並
（３）褐斑病		多
（４）退緑黄化病		並
（５）黄化えそ病		やや少
（６）コナジラミ類		並
（７）アザミウマ類		並
３　ブロッコリー		
（１）べと病		やや多
（２）ハスモンヨトウ		多
（３）シロイチモジヨトウ		やや多

表の見方について

・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。

※ 過去 10 年間で予報月に発生が確認されていない病害虫については、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。

・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。

作物名・病害虫名	予報内容	
	発生時期	発生量
４　ねぎ（秋冬栽培）		
（１）さび病		並
（２）黒斑病		やや多
（３）べと病		並
（４）軟腐病		やや多
（５）シロイチモジヨトウ		やや多
（６）ネギアザミウマ		やや多
（７）ネギハモグリバエ		並
５　いちご（本ぽ）		
（１）うどんこ病		並
（２）炭疽病		並
（３）ハダニ類		やや多
６　茶		
（１）カンザワハダニ		やや少
（２）ツマグロアオカスミカメ		並
（３）チュウゴクアミガサハゴロモの防除対策		

表の見方について

・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。

・並※： 予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。

・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。

令和８年度病害虫発生予報第７号（１１月予報）

令和８年１０月２７日
埼玉県病害虫防除所

１ 麦類の播種前防除対策

病害虫名	防除上注意すべき事項
コムギ なまぐさ 黒穂病	・種子伝染するため、種子更新を行うとともに種子消毒を実施する。 ・土壌伝染する場合もあるため、前作で発生したほ場では作付けを控える。 ・オオムギとコムギでは、なまぐさ黒穂病の病原菌が異なるため、被害が多発しているほ場では麦種を転換する。
黒節病	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（参照 1）を参考に、適期防除を実施する。 ・自家採種種子を使用する場合は、必ず種子消毒し、播種適期内で播種時期を遅らせる。
縞萎縮病	・播種後の土壌水分が多く、地温が高いと感染が増大するため、排水対策を実施し、播種適期内で播種を遅らせる。 ・オオムギとコムギでは、縞萎縮病の病原ウイルスが異なるため、被害が多発しているほ場では麦種を転換する。
オオムギ 斑葉病	・発生後に使用できる薬剤はないため、播種前に種子消毒を実施する。 ・遅まきは発生を助長するため、適期播種に努める。
シロトビムシ類	・発生後に使用できる薬剤はないため、常発地では、播種前に種子消毒を実施する。 ・遅まきは発生を助長するため、適期播種に努める。 ・有機質肥料（米ぬか、油粕等）の施用は、種子への加害低減に有効であることから、基肥としての使用を検討する。

参照１：病害虫診断のポイントと防除対策　https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html

表の見方について
- 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- **並※**： 予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- **多※※**： 調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多※※」と示しています。
- 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- **予報の根拠の〇は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。**

２　きゅうり（夏秋栽培）

病害虫名	発生予想(発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
べと病	多	○10 月中旬の発生量：多 □気象予報：気温は高い、降水量は多い（＋）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（参照 1）を参考に防除対策を実施する。 ・ハウス内を多湿にしないよう、温湿度管理に注意する。
うどんこ病	並	○10 月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い、降水量は多い（±）	・やや乾燥した条件により助長されるため、ハウス内の温湿度管理に注意する。
褐斑病	多	○10 月中旬の発生量：多 □気象予報：気温は高い、降水量は多い（＋）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（参照 1）を参考に防除対策を実施する。 ・ハウス内を多湿にしないよう、温湿度管理に注意する。
退緑黄化病	並	○10 月中旬の発生量：並 □11 月のコナジラミ類の発生量は並と予想（±）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（参照 1）を参考に防除対策を実施する。
黄化えそ病	やや少	○10 月中旬の発生量：やや少 □11 月のアザミウマ類の発生量は並と予想（±）	
コナジラミ類	並	○10 月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い（＋）	・本虫は退緑黄化病を媒介するため、「病害虫診断のポイントと防除対策」（参照 1）を参考に防除対策を実施する。 ・次作に持ち越さないように防除を徹底する。
アザミウマ類	並	○10 月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い（＋）	・本虫は黄化えそ病を媒介するため、「病害虫診断のポイントと防除対策」（参照 1）を参考に防除対策を実施する。 ・次作に持ち越さないように防除を徹底する。
【共通注意事項】 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。			

参照 1：病害虫診断のポイントと防除対策　https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html

表の見方について

- 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- **並※**：予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- **多※※**：調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多※※」と示しています。
- 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- **予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。**

３　ブロッコリー

病害虫名	発生予想(発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
べと病	やや多	○10 月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量は多い（＋）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（参照 1）を参考に防除対策を実施する。
ハスモンヨトウ	多	○10 月中旬の発生量：多 □フェロモントラップによる誘殺数：並（±） □気象予報：気温は高い、降水量は多い（±）	・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」（参照 2）を参考に、幼虫の若齢期に薬剤散布を行う。
シロイチモジヨトウ	やや多	○10 月中旬の発生量：並 □フェロモントラップによる誘殺数：並（±） □気象予報：気温は高い、降水量は多い（±）	・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」（参照 2）を参考に、幼虫の若齢期に薬剤散布を行う。
【共通注意事項】 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。			

参照 1：病害虫診断のポイントと防除対策　https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html
参照 2：フェロモントラップ等調査データ
https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrap.html

表の見方について
- 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- **並※**： 予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- **多※※**： 調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多※※」と示しています。
- 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- **予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。**

４　ねぎ（秋冬栽培）

病害虫名	発生予想(発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
さび病	並	○10 月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量は多い（＋）	
黒斑病	やや多	○10 月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い、降水量は多い（±）	
べと病	並	○10 月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量は多い（＋）	
軟腐病	やや多	○10 月中旬の発生量：やや多 □気象予報：気温は高い、降水量は多い（±）	・多肥栽培では、発生が助長されるため注意する。 ・明渠等を設置し地表水の早期排水を行う。
シロイチモジヨトウ	やや多	○10 月中旬の発生量：並 □フェロモントラップによる誘殺数：並（±） □気象予報：気温は高い、降水量は多い（±）	・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」（参照 2）を参考に、幼虫の発生初期に薬剤散布を行う。
ネギアザミウマ	やや多	○10 月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い、降水量は多い（±）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（参照 1）を参考に防除対策を実施する。
ネギハモグリバエ	並	○10 月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い、降水量は多い（±）	
【共通注意事項】 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。			

参照 1：病害虫診断のポイントと防除対策　https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html
参照 2：フェロモントラップ等調査データ
https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrap.html

表の見方について
- 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- **並※**： 予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- **多※※**： 調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多※※」と示しています。
- 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- **予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。**

５　いちご（本ぽ）

病害虫名	発生予想(発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
うどんこ病	並	○10 月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量は多い（±）	
炭疽病	並	○10 月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量は多い（＋）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（参照 1）を参考に防除対策を実施する。 ・被害株は抜き取って適切に処分する。
ハダニ類	やや多	○10 月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い（＋）	・保温開始前後（ミツバチ等導入前）に防除を徹底する。
【共通注意事項】 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。			

参照 1：病害虫診断のポイントと防除対策　https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html

表の見方について

- 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- **並※**：予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- **多※※**：調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多※※」と示しています。
- 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- **予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。**

６　茶

病害虫名	発生予想(発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
カンザワハダニ	やや少	○10 月中旬の発生量：無 □県予察ほ場の発生量：少（－） □気象予報：気温は高い、降水量は多い（±）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（参照 1）を参考に防除対策を実施する。 ・この時期（11 月）の薬剤防除は、越冬虫密度を下げる効果がある。
ツマグロアオカスミカメ	並	○10 月中旬の発生量：散見 □県予察ほ場の発生量：多（＋） □気象予報：気温は高い、降水量は多い（±）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（参照 1）を参考に防除対策を実施する。 ・常発園や多発した園では、産卵のために成虫が茶園に再飛来する 10～11 月に防除を行う。越冬卵密度が低下し、翌年一番茶芽の被害軽減効果がある。
チュウゴクアミガサハゴロモ			・10 月 16 日発表の病害虫防除情報（参照 3）を参考に防除対策を実施する。 ・産卵された枝は秋整枝の際に切除する。

【共通注意事項】
・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。
・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。

参照 1：病害虫診断のポイントと防除対策　https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html
参照 3：病害虫防除情報「チュウゴクアミガサハゴロモの防除について」（令和 8 年 10 月 16 日）
https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/info20261016.html

＜農薬使用上の注意事項＞

1　農薬は、ラベルの記載内容を必ず守って使用する。
2　剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍数は使用の都度、確認する。
　特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
3　農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
4　スピードスプレーヤを使用した防除ではドリフトが発生しやすいので、風のない日に適正な方法で散布する。
5　周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。
6　農薬の最新情報は、農薬登録情報提供システム（農林水産省）から検索できます。
　農薬登録情報提供システム（農林水産省）　https://pesticide.maff.go.jp/

表の見方について
・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
・**並※**： 予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
・**多※※**： 調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多※※」と示しています。
・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
・ **予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。**

（参考）気象概要　１か月予報（令和８年10月22日発表）

出典：気象庁ホームページ

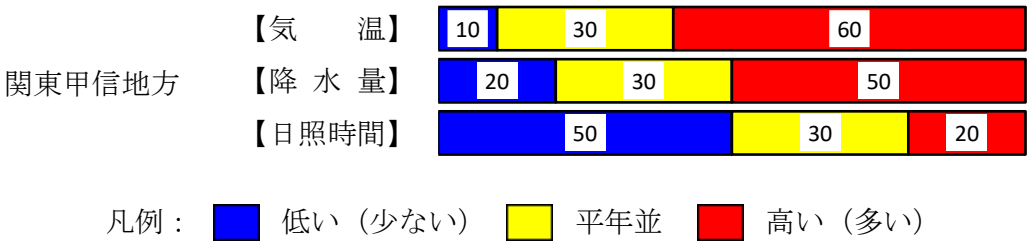
（https://www.jma.go.jp/bosai/season/#area_type=offices&area_code=110000.html）

＜予報のポイント＞

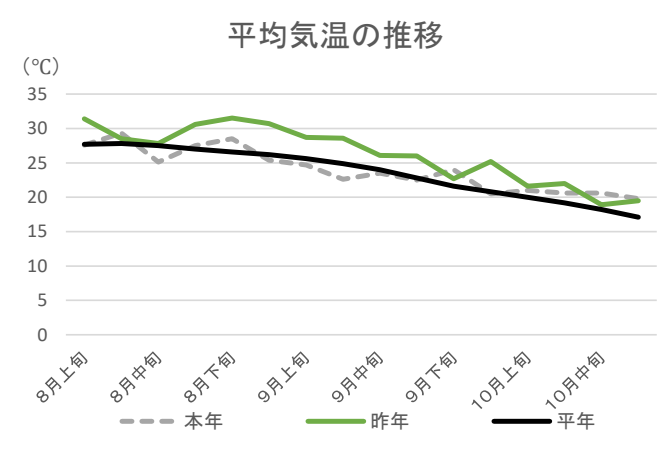
・暖かい空気に覆われやすいため、向こう１か月の気温は高いでしょう。期間のはじめは、気温がかなり高くなる見込みです。

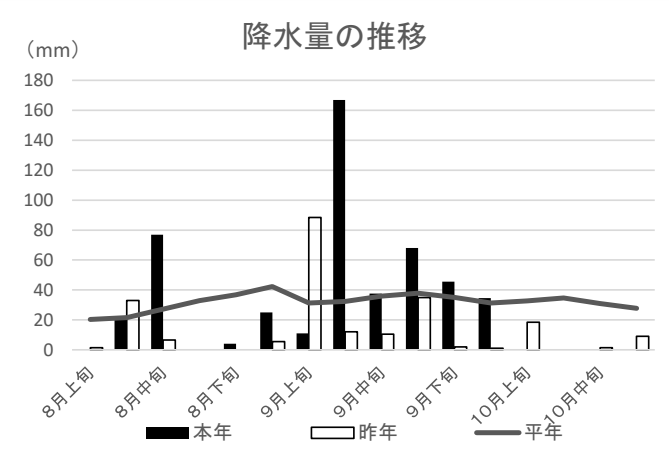
・低気圧や前線の影響を受けやすいため、向こう１か月の降水量は多く、日照時間は少ないでしょう。

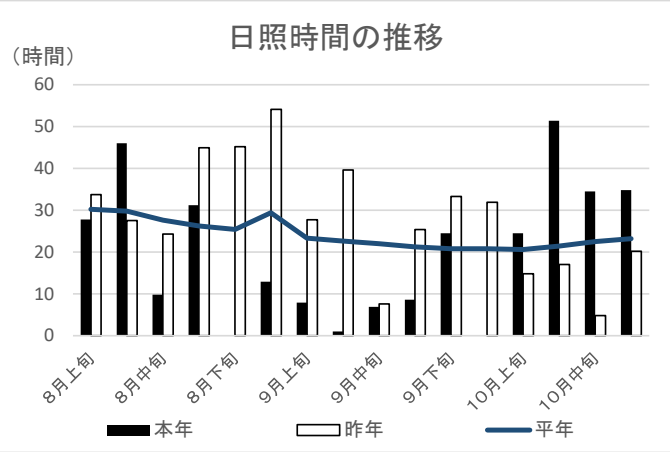
＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）＞



（参考資料）過去の平均気温、降水量、日照時間（熊谷）







問い合わせ先
埼玉県病害虫防除所
〒360-0102　埼玉県熊谷市須賀広784
電話：048-539-0661　FAX：048-539-0663
E-mail：k3603114@pref.saitama.lg.jp
http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0916/